

県議として初！ 一般質問に **登壇!!**

地域の安心・安全 活性化目指し施策提言

県議会12月定例会において、県議会議員として初めてとなる一般質問を行いました(12月10日)。本号ではその概要を掲載しご報告とさせていただきます。

どうぞ一読いただき、県政にたいするご意見やご感想などをいただけると幸いです。

知事公約と今後の施策展開について



知事が掲げた5大プロジェクトのうち「人生100年プロジェクト」とは、何をどのように進めていくのかを質問しました。工程表では取り上げる事業が限られていて、知事の誰一人取り残さないとの考え方からは遠く離れ、多くの世代を取り残してしまうのではないかと思います。また、コバトン健康マイレージにつ

いても、工程表では団体や民間企業との連携、アプリの機能向上としか記載されていませんが、目標を定め、いつ何を実施していくのか、知事の所見を伺いました。

「人生100年プロジェクト」について、『全世代を対象に』との考え方では一致していることが確認できましたが、具体的に何をどう進めていくかについては、工程表で示された内容を繰り返すのみで、納得できる回答はありませんでした。また健康マイレージについても、参加者数が伸びていないことは認めつつ、「今後の進捗状況を踏まえて検討していく」との回答でした。

乳幼児医療費助成制度における補助対象年齢の拡大について

県の市町村に対する助成制度は、対象を就学前の乳幼児としています。一方、市町村では、令和元年10月1日現在で通院は15歳まで対象が41市町、18歳まで対象が22市町村、入院は15歳まで対象が37市町、18歳まで対象が26市町村となっており、県と市町村に対象年齢の差が生じています。

対象年齢の拡大を県に提言しました。

県は「乳幼児医療費助成制度は国が統一した制度で実施するべきであり、国に対して要請していく」と、残念ながら従来の回答を繰り返すのみでした。今後しっかり取り組んでいかなければならない課題だと考えています。

保育士の確保と処遇改善について

乳幼児教育・保育無償化が始まり、保育所のニーズが高まっています。しかし、地元の朝霞市では保育所はたくさん開設されていますが、待機児童はゼロになりません。保育所の受入枠を増やすためには、保育士の確保が重要になります。

朝霞市では独自に保育士一人あたり1万円の給与の上乗せ補助を行っていますが、東京都では4万4,000円の補助をしており、到底太刀打ちできません。東京都の保育士の平均賃

金月28万7,000円に対し埼玉県は23万6,600円で約5万円の差があります。保育士の給与を上げて処遇を改善していくことが必要だと提言しました。

県はこれまでの取り組みを繰り返すのみで、保育士の給与問題は「自治体間で保育施設の運営費収入となる公定価格に大きな差があること。公定価格の見直しを国に繰り返し要望していく」の回答でした。引き続き取り組んでいかなければならないと考えています。